

令和2年度「伝えよう！本の魅力コンテスト」ツイッター部門 受賞作一覧

◆最優秀賞

『でも女』（群ようこ／著 集英社）

仲良し3人組の新しい仲間はとっても鈍くさい女の子。私たちとは少しリズムが合わないみたいだけど、かっこいいお兄さんがいるらしいから…。

女性の少～し嫌なところが、作者らしくズバズバ描かれている。あーいるこんな人とくすつしたり、私だ…とドキつしたり、飽きのこない短編集です。(136)

◆優秀賞

『パブリカ』（筒井康隆／著 新潮社）

この本で描かれる夢の世界は私に大きな衝撃を与えた。人が見る夢は曖昧なものであり、寝ている間のことをはっきり覚えていることは少ない。しかし、この本はその曖昧さを残しながらも正確な描写がされ、本を読みながら夢見ているかのような不思議な世界を味わえる。新しい「夢」の見方を楽しんで欲しい(140)

『15歳のテロリスト』（松村涼哉／著 KADOKAWA）

15歳の少年が真実を知るために事件を起こす。それは、復讐であり、少年の真の目的のためであった。登場人物一人一人の過去を知り、真実が分かったとき、あなたはこの少年を犯罪者といえますか？誰もが少年法について考え、希望ある未来を望む。心が震え、息をのむ世界からあなたは抜け出せなくなる。(139)

『アウシュヴィッツの図書係』（アントニオ・G. イトゥルベ／著 集英社）

舞台は第2次世界大戦中のアウシュヴィッツ強制収容所。そこには命を懸けて8冊だけの秘密の本を守る少女ディタがいた。死と常に隣り合わせで生きていくディタからは、生きるということがどういうことか、勇気を持つのはいかに大切かを学ぶことができる。実際に著者が取材して得た感動の実話を、ぜひ。(140)

『向日葵の咲かない夏』（道尾秀介／著 新潮社）

消えた死体はどこへ？読み進めるうちに疑問や違和感が次々と生まれてくる本作品。級友の死を目撃した主人公がその級友と共に死の真相を追うという不思議な展開に読者は自然と引きずり込まれる。物語の終わりには独自の世界を持つ作者、道尾秀介が仕掛ける予測不能な大どんでん返しが待ち構える。(137)

『桃太郎』（芥川龍之介／著 青空文庫）

日本人なら誰もが知っている桃太郎。ですがこの桃太郎は少し違います。この本は桃太郎が悪者として書かれています。1つの正義を別の視点で見ると悪になると言う。この本を読むと今までの自分の見方や考え方を見直してみようと思うようになる、そんな作品です。（121）